

日本との パートナーシップ

すべての人に健康を届けるために

長年にわたり、保険医療のアクセス改善を推進してきた日本政府は、すべての人々が性と生殖に関する健康 / 権利のアクセスを保障し、女性や少女の「からだの自己決定権」や彼女たちの持つ可能性の実現に向けて取り組む UNFPA の活動において、欠かせないパートナーです。日本はユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)* の達成と、性と生殖に関するヘルスサービスの普及を目指す UNFPA の活動を支援しています。

*ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) とは、すべての人々が基本的な保健医療サービスを、必要なときに、負担可能な費用で享受できる状態

揺るぎない人道支援

日本は UNFPA の人道支援活動に大きく貢献しています。2022 年には人道支援分野における国別ドナーランキングで世界第 2 位、不測の事態に素早く対応することができる一般拠出金に関しても上位 10 か国に入ります。

人口分野における パートナーシップ

日本政府は、人口と開発の問題に取り組む超党派議員連盟としては世界初の団体となる国際人口問題議員懇談会 (JPFP) を創設するなど、人口問題の分野においても UNFPA の揺るぎないパートナーです。近年では、高齢化・少子化に関する連携を目指しています。



UNFPAについて

国連人口基金 (UNFPA) は性と生殖に関する健康に取り組む国連機関です。すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全に行われ、すべての若者の可能性が満たされる世界の実現を目指して活動しています。

UNFPA の活動資金は、すべて任意拠出金によって成り立っており、各国政府をはじめとするさまざまなパートナーの支援によって、プログラムを実施しています。

UNFPAの 「3つのZEROミッション」



妊娠・出産による妊産婦の死亡をZEROに



家族計画サービスへのニーズが満たされない状況をZEROに



ジェンダーに基づく暴力 (GBV) や有害な慣習をZEROに

日本とUNFPAの関わりについて、さらに詳細な情報はこちらから。



UNFPAと日本

女性と少女のためのパートナーシップ

日本と UNFPA との強いパートナーシップによって、より多くの女性と少女が、より健康で充実した、暴力を受けることの無い人生を享受することができるようになっています。

日本の支援がもたらしている変化を確認してみましょう。

#UNFPAthanksJAPAN



© UNFPA/Junior Mayindu

#PartnersAtCore



2022年に日本政府の 支援により実現した成果

1,015件の
妊産婦の死亡を回避

436,106件の
意図しない妊娠を回避

120,062件の
危険な妊娠中絶を回避



168,300件の
性感染症を女性用 / 男性用コンドーム
によって予防

1,947,000年分の
人生を意図しない妊娠から保護

495人の
女性と少女に対し、産科フィスチュラの
治療を実施

3,861件の
HIV / エイズを女性用 / 男性用コンドーム
によって予防

211,200人の
疎外された少女に対し、生活スキルト
レーニングを実施

*この数値は、UNFPAの活動成果の全体から資金拠出割合に基づいて算出した概算値です。



3,677人の
少女の女性器切除
(FGM)を回避



46,200人の
女性、青少年、
若者に対し、有
害な慣習に関する
質の高いサー
ビスを提供



69,300人の
女性と若者に対し、
性と生殖に関する
ヘルスサービスを
提供

